

4月1日

地区の活動拠点を新たに

市政



市が移転改築を進めてきた南都田地区センターが完成し、供用を開始しました。敷地は旧南都田中学校跡地を利用し、体育館は同校のものを改修。木を生かしたデザインの玄関ホールや、間仕切りできる会議室などを整備しました。佐藤安雄センター長は「幅広い世代が触れ合う場になれば」と話しました。

4月2日

及川マサさん 100歳
(水沢字大橋)

百寿



水沢で生まれ、20歳で故・芳雄さんと結婚。1男3女をもうけ、孫5人、ひ孫3人に恵まれています。長寿の秘訣は、よく食べてよくよくしないこと。息子の松太郎さんは「皆さんのおかげで100歳を迎えることができ、感謝の気持ちでいっぱい。これからも長生きしてほしい」と願っていました。

4月3日

若者のアイデアを込めた横断幕で地区をPR

イベント



真城地区の若い世代による団体「ちーむやなぎ(仮)」は、同地区センターの外壁に設置している、真城をPRする横断幕をリニューアルしました。高校生メンバーが中心となり考案したキャッチコピーは「真城を温めておきました!」。佐藤永匡代表は「若い世代から真城を盛り上げていきたい」と意気込みました。

4月5日

無観客競馬でシーズン開幕

イベント



岩手競馬の20年度シーズンが水沢競馬場で開幕しました。シーズンを迎え、県調騎会騎手部長の村上忍騎手が「競馬の持つ力を信じ、騎手一同精いっぱい騎乗する」と宣言。今年は新型コロナウイルスの感染防止のため、無観客でのレースとなり、馬が力強く駆ける音が場内に響き渡りました。

4月10日

節目の年に竿頭綬を受章

イベント



市消防団は、第72回日本消防協会定例表彰で「竿頭綬」を受章しました。優れた技能などを持つ消防団に与えられるもので、消防団統合後、初めての受章となります。小原勝喜団長は「統合から10年となる節目の年に受章できうれしく思う。旧市町村時代の歴史が受章につながった」と喜びをかみしめました。

4月19日

千田ノブさん 100歳
(江刺米里)

百寿



江刺で生まれ、18歳で結婚した養幸さん(戦死)との間に長男を、その後再婚した養幸さんの弟・昭栄さん(故人)との間に長女を授かり、孫5人、ひ孫4人に恵まれています。農業に励みながら、民生児童委員や食改善リーダーを務めました。祝う会で家族は「皆さんのおかげでこの日を迎えられた」と感謝しました。

市立幼保連携型認定こども園

前沢北こども園 開園式



鮮やかなオレンジ色の園旗が披露された。園章は「前沢のM・北のK・みどりの自然や水に恵まれた豊かな環境」をデザインした



明るさと開放感を兼ね備えた内観



3台のバスで園児の送迎を行う



関係者への感謝を述べた小沢昌記市長

気持ちを新たに意気込む小野寺一恵園長



天井が高く明るいホール



0歳児保育室

4月10日、前沢北こども園の開園式が行われました。前沢北こども園は、地域の待機児童の解消と、教育・保育を一体的に行うことを目的に、市が「子ども・子育て支援法」の下で初めて整備した幼保連携型認定こども園です。前沢南幼稚園、前沢北幼稚園、前沢東幼稚園の3つの幼稚園を再編して誕生しました。

開園式には、小沢昌記市長や前沢北こども園職員ら約40人が出席しました。市長は挨拶の中で「地域の子どもたちにより良い教育環境を提供すべく、開園までご尽力くださった関係者の皆さまへ感謝を申し上げます」と述べました。小野寺一恵園長は「大切な命をお預かりする気持ちを忘れず、常に安全安心を第一に考え、惜しみない愛情を注ぎ、健やかでたくましい園児を育てていきたい」と決意を新たにしました。

式では、新しい園旗や園歌が紹介されました。園歌には、東稲山や北上川など地域で親しまれている地名が盛り込まれており、園児が地域で楽しく伸び伸びと遊ぶ様子が表現されています。

4月14日には入園式が行われ、前沢北こども園は新たな一歩を踏み出しました。

【前沢北こども園の概要】

- 構造 鉄骨造2階建て
- 延べ床面積 1,926.25㎡
- 主な諸室
 - 保育室9部屋(0～2歳児保育室各1部屋、3～5歳児保育室各2部屋)、遊戯室、子育て支援室、図書室、職員室、

- 調理室(オール電化)、会議室、収納スペース(1階、2階)
- 教育・保育時間
 - 午前7時30分から午後6時30分まで
- 利用定員 150人
- 職員体制 35人

